

最明寺（雲母山最明寺）

宗派：曹洞宗（本山：永平寺・總持寺）

本尊：釈迦牟尼佛、右脇佛：薬師如来、左脇佛：阿弥陀如来

創建：1263（弘長3）年

寺宝：開山法衣、袈裟。開山絵像（一幅）、開山筆跡、中興絵像、中興筆跡

所在地：西尾市上羽角町池下9

最明寺は鎌倉幕府執権職であった北条時頼講公がその子時宗を伴って、九州博多へ元の襲来に備え出向の折り、占部（現、岡崎市正名町）の金子山釈迦堂に参拝し、一泊した。そのお礼として寺領75石、山林5町歩を寄進した。1263（弘長3）年11月22日、時頼公が死去した後、その子北条時宗が寺領50町歩、山林76町歩を寄進（朱印）し、釈迦堂の寺号を最明寺と改めた。さらに、1315（正和4）年6月15日付けで浦邊郷（碧海郡）の内50町歩を寄進した。以後は、北条家とその家臣を弔う菩提寺となった。その後、北条家没落と共に、徳川氏と今川氏の戦乱の時、寺の堂宇すべてを焼失した。

1782（天明2）年、龍海院（現、岡崎市明大寺町）18世である玉瀧海琳大和尚（中興6世）を開山とし、現在地に再興された。後に、山林76町歩の寺領を許されたが、明治維新で上地となり、戦後の農地解放を経て今日に至っている。現在の本堂は、1782（天明2）年当時の建立と推定される。庫裡は1968（昭和43）年5月に再建されている。本尊は約700年前の小野精慎作と鑑定（元、岡崎図書館長柴田氏）されているが、本堂落慶法要時に金鉋塗が施されていると言われている。

別堂に安置の弘法大師像は1898（明治32）年11月当山14世大秀珪峰大和尚が靈験により、尾張国西春日井郡の或る村の辻神として祠られていたものを、当山に勧請し、四国八十八ヶ所のお堂を祠り、開眼大祭を実施した。次表に歴代住職を示す。

| 歴代住職 | | |
|------|------------|-------------------|
| 代 | 名前 | 寂（没）年 |
| 初 | 玉洲海琳（法地開山） | 1729（享保14）年4月1日 |
| 2 | 絶方癡学 | 1763（宝暦13）年7月27日 |
| 3 | 雲門即道 | 1765（明和2）年9月14日 |
| 4 | 佛缸大如 | 1780（安永9）年7月6日 |
| 5 | 鳳山得髓 | 1794（寛政6）年3月1日 |
| 6 | 深道疎山（中興6世） | 1797（寛政9）年1月11日 |
| 7 | 逸堂虎山 | 1812（文化9）年6月30日※1 |
| 8 | 義道大勇 | 1824（文政7）年5月17日※2 |
| 9 | 越堂物先 | 1826（文政9）年1月2日 |
| 10 | 柏室真宗 | 1861（文久1）年11月24日 |
| 11 | 萬安獨探 | 1863（文久3）年8月18日※3 |
| 12 | 大道古関 | 1866（慶応2）年2月25日 |
| 13 | 大要道機 | 1892（明治25）年3月28日 |
| 14 | 大秀珪峰 | 寂年不詳（於：帯広） |
| 15 | 大應活道 | 寂年不詳（於：帯広） |
| 16 | 大宗祖峰 | 1922（大正11）年7月28日 |
| 17 | 大光普照 | 1990（平成2）年1月10日 |
| 18 | 大珪禪道 | 2011（平成23）年6月12日 |

※1原文は文政9年（1826）、※2原文は文化7年（1810）、※3原文では明治32年となっておりそれぞれ年代が逆転してしまうので修正した。

[北条時頼 (1227～1263)]

北条時頼(ほうじょう ときより)は、鎌倉時代中期の鎌倉幕府第5代執権(在職:1246年～1256年)である。北条時氏の次男で、4代執権北条経時の弟。8代執権北条時宗、北条宗政、北条宗頼らの父。通称は五郎、五郎兵衛尉、武衛、左近大夫将監、左親衛、相州、また出家後は最明寺殿、最明寺入道とも呼ばれた

[北条時頼 (1251～1284)]

北条時宗(ほうじょう ときむね)は、鎌倉時代中期の武将・政治家。鎌倉幕府第8代執権。鎌倉幕府執権職を世襲する北条氏の嫡流得宗家に生まれ、世界帝国であったモンゴル帝国の日本に対する圧力が高まるなかで執権に就任。内政にあつては得宗権力の強化を図る一方、モンゴル帝国の2度にわたる侵攻を退け(元寇)、後世には日本の国難を救った英雄とも評される。

[空海(弘法大師) (774～835)]

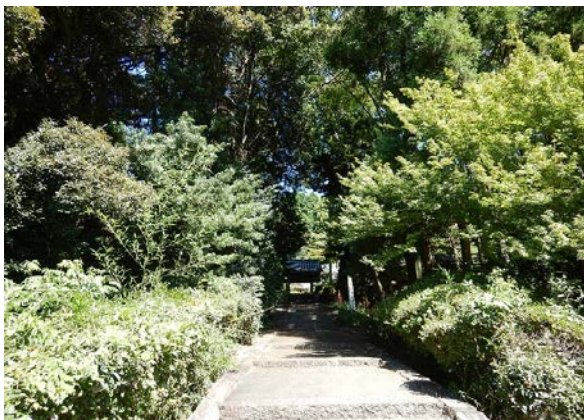
空海(くうかい)は、平安時代初期の僧。弘法大師の諡号(921年、醍醐天皇による)で知られる真言宗の開祖である。俗名(幼名)は佐伯 眞魚(さえきの まお)。日本天台宗の開祖最澄(伝教大師)と共に、日本仏教の大勢が、今日称される奈良仏教から平安仏教へと、転換していく流れの劈頭に位置し、中国より真言密教をもたらした。能書家としても知られ、嵯峨天皇・橘逸勢と共に三筆のひとりに数えられている。

[玉洲海琳(1668～1729)]

当寺(最明寺)初代住職。曹洞宗大本山總持寺御直末瑞雲萬歳山大寧護國禪寺30世(住職期間1723～1729)。

[大光普照(1909～1990)]

大光普照師は1909(明治42)年5月10日、碧海郡依佐美村大字高棚に生まれた。7歳で当寺(最明寺)14世大秀珪峰師に弟子入り、8歳の時得度、16歳から21歳まで永平寺および東京泉岳寺で修業した。1924(大正13)年に当寺17世住職に就任した。



160820 最明寺山門



160820 最明寺本堂



160820 弘法大師堂



160820 最明寺鐘楼



160820 最明寺

最明寺には作者不詳の万葉歌碑があり、1975（昭和50）年～1985（昭和60）年頃に建立されたと思われる。

「信濃なる 千曲の川の 細石（さざれし）も 君し踏みては 玉と拾はむ」
（信濃の国にある千曲川の小石も、あなたが踏んだら、私は玉と思って拾いましょう）



最明寺歌碑

本項は最明寺提供の資料からの引用である。

